



第5章

第2期計画における取組の方向性

取組番号	(2)	取組名	市南部への新駅整備に向けた取組の推進			拡充	大骨格
関係団体	山形市、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者						
第2期計画の取組内容	鉄道事業者等と協議が整い次第、整備に着手する。 ＜具体的な取組内容＞ ①JR 奥羽本線の山形駅と蔵王駅間において、駅施設と駅前広場等などの関連施設整備に着手する。 ②新駅周辺については、拠点ネットワーク型集積都市における副次拠点として、駅を中心として商業や公共サービス(医療・福祉、子育て支援、行政サービス等)の集積を図るとともに、居住機能の誘導を通じて生活利便性の向上を図る。加えて、賑わいの創出や新たな雇用機会の創出を促進し、地域全体の経済活力の向上に資する拠点となるよう、都市計画の変更等について検討を進める。 ③新駅については、②のまちづくり施策と整合を図り、周辺生活圏からの優れたアクセス性を備えた市南部における拠点形成を支える交通結節点として整備する。鉄道による広域移動の拠点としてはもとより、駅前広場の整備や機能の充実により、路線バスや「南くるりん」等の二次交通との円滑な乗り換え機能を確保し、日常生活及びまちの賑わいを支える公共交通ネットワークの利便性向上を図る。 ✔実施のポイント ▶ 二次交通の機能について、路線バス事業者やタクシー事業者と連携して検討する。 ▶ 新駅利用者数の予測結果(基礎需要)に基づく、利用環境構築策(短期・長期施策)を検討・実施する。						
	時期	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 以降 (2030 以降)	
	①	基本設計		詳細設計・工事			
	②	調査・検討	都市計画の変更等		各種展開		
	③	新駅機能の検討		路線バス再編の検討 南くるりんのルート検討			利便増進 計画の 策定検討

取組番号	(3)	取組名	鉄道駅をはじめとした交通結節点のバリアフリー化	継続	大骨格
関係団体	山形市、鉄道事業者、道路管理者				
長期的な取組内容	▶ 北山形駅周辺地区バリアフリー基本構想に基づき、駅周辺地区のバリアフリー化を推進する。 ▶ 観光需要が高い山寺駅については、バリアフリー化の実施に加え、景観に配慮した駅前広場の整備など、観光利用の促進に資する取組を検討する。 ▶ 1日あたりの利用者数が多い蔵王駅をはじめとした市内の鉄道駅においても、バリアフリー化を検討する。				